

第1回 小中一貫校準備会議

議事録 要旨

1 開催日時 平成26年1月31日(金) 19:00~21:00

2 開催場所 生駒北小学校多目的室

3 参加者 小柳和喜雄（奈良教育大学教職大学院教授）
諸岡健一（保護者代表）、角 義恭（保護者代表）
吉川 太（自治会代表）、有山喜八郎（自治会代表）
十文字良明（生駒北小学校長）、本田善藤（生駒北中学校長）
富山二郎（教職員代表）、松島誠周（教職員代表）

4 開会あいさつ

・早川教育長

昨年度は小中一貫教育を生駒北地区で行うプランを市として示し、数回にわたる懇話会での話し合いの結果、おおむね地元の方や先生方のご理解を得たと判断している。今後は小中一貫校の設立を進め、設計等を行っていく。皆さんの御意見を集約して高山にふさわしい、奈良県下で注目されるような学校を作っていきたい。

・出席者紹介

・事務局紹介

・座長および座長代理の選出

5 質疑応答

座長： 本会議の趣旨及び運営について説明いただく。

事務局： この会議は施設整備について関係者に意見をうかがうもの。団体の意見を反映したご意見をいただきたい。内容は文書やホームページでお知らせする。また、会議は公開で行い、設置場所、施設の在り方、小中一貫校としての名称等についてご意見を伺う。教育課程は教員で編成する別の会議で議論する。

参加者： 教育課程とはどういうことか。

事務局： 学校が行う教育活動すべての目標や内容を示したものだ。

参加者： 懇話会配布資料を見ると、小学3年からの英語、先端大との連携、伝統文化の学習等が書かれていた。地域の声や要望を反映させる仕組みも必要だ。準備会議の議題と推進協議会の議題は別々のものとして線引きされるものではない。

事務局： その通りだ。教育課程は学校が編成するが、地域の実情に配慮しなければならない。地域の声を学校が教育課程を考える時に活かしてもらいたい。

参加者： それがコミュニティスクールの概念だと思う。

座長： 準備会議の使命を分かり合えた。生駒北小中一貫校設置のスケジュールを説明いただく。

事務局： 平成 26 年度に基本設計、実施設計を予定している。設計は競争入札でなくプロポーザルで行う。施設設計コンセプトをまず出すが、ここでの議論を踏まえて提示する。募集、審査、決定に 2~3 か月かかるので、基本設計が始まるのが 7~8 月。設計に約 1 年かけ、平成 27 年度から工事に入る。解体工事や新築工事を 1 年半ぐらいかけて行い、平成 28 年末までに竣工する。春休みに引っ越しを行い、平成 29 年度に新しい校舎で小中一貫教育をスタートできるのではないかと。これは現時点で最速の予定だ。

参加者： 設計業者を決めるプロポーザルとは、基本コンセプトを示し、業者がそれに応えた中から選ぶということか。

事務局： 競争入札は工事の仕様を示して一番安い価格の業者を選ぶ。プロポーザルは設計理念や設計コンセプト、敷地の状況等を示し、こんな校舎を作りたいという企画提案書を提出してもらい、そして有識者を含めた審査委員会が実績、技術力、企画力等を総合的な見地から審査して業者を決める。

参加者： 基本コンセプトについてこの会議でも話を出せるのか。地域交流施設などこうしてほしいという要望を出せるのか。

事務局： 地域や保護者の意見をできるだけ反映させてコンセプトを作る。

参加者： 業者を決める時期までに意見をまとめるということか。

事務局： それまでの議論を踏まえてプロポーザルを行いたい。

事務局： 南こども園のプロポーザルで示した設計コンセプトは、環境にやさしく快適な施設、「あそび」と「まなび」の融合、「安心」と「安全」への配慮だった。市のホームページであげているので、参考にしていただきたい。

参加者： 業者は学校のレイアウト等が専門なのか、建物を作る建設会社なのか。計画、設計から建築まで一括して行う業者を選定するのか。

事務局： こども園のプロポーザルでは、国内のこども園、幼稚園等の設計業務を行った実績を有することを参加資格のひとつとした。学校施設でも参加資格を示す。

参加者： 設計、施工を一括して業者を決めるのか。

事務局： 設計のみである。

参加者： 具体的なプランニングの段階で業者と地域が 1 つのテーブルに着き、対話しながら進めていくのはどうか。

事務局： プロポーザルのイメージを図面にして、地元説明会や保護者説明会を行うことはできる。

座長： スケジュール表では幅を持たせて矢印にしているのだと思う。

参加者： 平成 26 年度の前半で業者から地域に打診し、具体的な形にすることでいいものができる。

参加者： 学校現場にも同様にしていきたい。図面を見たり業者から聞いたりすることで意見が言える。小中一貫校は給食センターとこども園と一緒に作業が進むのか。

事務局： プロポーザルで提案されるのはイメージである。基本設計や実施設計の時に地域や学校の皆さんの声を聞き、業者と意見交換をして設計が決まっていく。スーパー学校ゾーン構想にはこども園や給食センターも含まれているが、小中一貫校が先行する。

参加者： 小中一貫教育の研究とこの会議との関係を教えてほしい。

事務局： 小中の系統立てた教育課程の研究は教員で組織する会議で平成 27 年度まで続けていくということだ。

座長：平成28年度から実質的に小中一貫教育が始まるので、それまでにある程度詰めておかなければならない。

参加者：設置場所を決めたうえでプロポーザルということか。

事務局：敷地の形に応じて建物を建てる必要があるので、そのようにお願いしたい。

参加者：高山スーパースクールゾーン全体との関係で考えなければならないのではないかな。

事務局：生駒北小学校の校舎は昭和37~44年、生駒北中学校の校舎は昭和47~53年の建築である。広さは小学校19946㎡、中学校は23407㎡で、敷地は中学校の方が長方形に近い。小学校敷地の利点は学校前道路の交通量が少ないこととバス停まで近いことであり、課題は中学校より狭いことと、細長くて段差があること。中学校敷地の利点は面積が大きく、長方形なので利用しやすいこと、課題としては玄関への進入路が狭いこと、県道の交通量が多いことである。

参加者：高山幼稚園を含めると敷地面積はどうなるか。

事務局：高山幼稚園の敷地を第2グラウンドとして使用することも考えられる。面積は4348㎡で、これを足すと中学校の面積と同じくらいになる。

参加者：北中の奥にあるテニスコートも敷地面積に含まれているのか。

事務局：運動場面積に含まれている。

参加者：お金の問題ではあるが、段差を解消しようと思えばできるのではないかな。野球部はグラウンドを小学校の体育館側に持ってくるのでできるのではないかな。

事務局：野球は中学校でするときに比べて制約があるのではないかな。段差解消には相当な時間がかかる。

参加者：部活動が安全にできる敷地を確保してほしい。グラウンドに学童保育があり、小学生が遊ぶ範囲と中学生が部活動をする範囲を明確にしてもらわなければ危険だ。

参加者：近くに民家があるとボールが飛んで危ない。ネットを張っても万全ではない。北小近くには民家がたくさんあり、迷惑をかける。まだ開発できるところがあるので、買収等で広げたらこういうレイアウトになる、と市から提示してもらいたい。

参加者：小中一貫校の敷地としては、北中を選びたい。部活動の活性化のため、広いグラウンドで伸び伸びとやらせてやりたいし、小学校は遊具も必要なので、広い敷地の方がいい。ただ、川の西側は朝の時間帯にダンプが通る。西側から120人の子どもが通学しているので通学路の安全対策が必要である。北小は運動場の水はけも悪く、いいグラウンドとは言えない。

参加者：中学校が小学校に来たら理科の実験や金工、旋盤等を小学校の設備でできるのか。引っ越しは1年半だけだが、充実したものになるようにしなければならない。

参加者：懇話会では北中に設置する意見が多かったのか。

事務局：何回か意見をいただいた。準備会議で改めて意見をいただきたい。

参加者：小学校敷地の道路側をグラウンドとすると、校舎が奥になる。そのような学校はあまりない。川の西側には擁壁が道路まで出ているところがあり、中学生は自転車を押して通学している。擁壁をとることができたら西側の歩道は確保できる。宮方バイパス方面への出口を作れば北側の道の問題も解決できると思う。富雄第三小中学校では敷地の中に車を入れていないと聞いているがどうか。

教育長：学校の敷地外に駐車スペースがある。

参加者：通学の危険な方に小中一貫校を持って来るなら、何とかしていかなければならない。市から県に県道の整備等の働きかけが大事ではないかな。玄関も県道側に正門を作る等、大人としての責任ある行動が大

事だ。給食センターからの車の出入りは考えなくてもいいのか。

事務局： 小学校と中学校のどちらに持ってきても課題である県道については郡山土木、市の道路担当課、警察と連携して対応する。もし中学校側に持っていくなら正門の位置を変える検討をしたい。給食センターやこども園についてはまだ詳細が決まっていない。

事務局： こども園と給食センターはどちらの敷地でも建設できる。小中一貫校がメインなのでまずこれを考えていきたい。

参加者： 通学路の問題はどちらに作ってもクリアしなければならない。半分の生徒は県道を越えないといけない。高山幼稚園の敷地が第2グラウンドとして使えない時は小学校の敷地だけになる。

事務局： こども園ができないと高山幼稚園は動かせない。こども園の開園は小中一貫校より後。こども園が開園したら高山幼稚園敷地の整備ができる。

参加者： こども園が作られることは決定しているのか？

事務局： その前提で検討をお願いしたい。

参加者： こども園に通う子供たちの為にも通学路の整備が必要だ。

事務局： もちろんだ。しかし小中学生と違い、園児は保護者同伴または通園バスで通うことになる。

参加者： 民家がたくさんあるところに給食センターが来れば、下水とにおいはどうか。

事務局： 中学校側には公共下水道が通っているが、小学校側にはない。法で害のない状態にして流すよう規定されているので除害施設を設ける。小学校用地で建てる時は除害施設に加えて浄化槽を設けて放流する。中学校用地に建てる则接道は東側道路になる。小学校用地に建てる時は検討が必要。敷地面積はよく似ている。においは他市の新しい給食センターを見に行くとはほとんどしない。

事務局： すでに借用区域については、地区のみなさんが担当課から説明を受けておられると思う。小学校用地に給食センターを建てる場合は担当課と何が最善かを検討する。

参加者： 北小に給食センターが来ても条件的には変わらない。地域としては若い人がとどまるようにしてほしい。小学校敷地に2車線道路と若い人が住める場所を設けてほしいのだがどうか。

参加者： まず小中一貫校の設置場所を決め、従属的に給食センターやこども園が決まっていくということか。

事務局： 認定こども園関係の会議の立ち上げはまだかと言われている。小中一貫校が決まったらそれもある。

参加者： 小中一貫校の先行を許してもらっているということですか。

座長： 安全についてはどちらになっても考える。グラウンドも同じ。次回までに所属の声を聞いてくるということですか。

参加者： 新しい校舎を運動場に建てることは考えていないのか。運動場に建てる則引越せずすむ。

座長： グラウンドや校舎や正門も含めて小学校と中学校のどちらの敷地に建てればいいのか、次回までにご意見を聞いていただくということですか。児童生徒がいる昼間に集まり、子ども達の動線を見ることも考えてはどうかと思うのだが。・・・

参加者： みんな地元なので見る必要はない。

座長： それでは次回も夜の会議となる。

6 事務連絡 (事務局)

今回の開催については日程を調整後、連絡する。